

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学部システム創成学科・3年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: ニューサウスウェールズ大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員○ 4.非営利団体  
5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( )

### 派遣先大学の概要

オーストラリアのシドニーに所在するニューサウスウェールズ大学の社会学部の在籍。

### 留学した動機

高校生の頃から留学をしたいと考えていました。将来について具体的に動き出すこの時期に海外に身をおくことで、学業面だけでなく、自分を成長させることができると考えたからです。

### 留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[ 2014 ]年 学部 [ 3 ]年の[ 夏 ]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 留学
- ③留学期間: 2014 年 7 月 ~ 2014 年 11 月 学部 [ 3 ]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[ 2014 ]年 学部 [ 3 ]年の[ 冬 ]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 未定
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[ 43 ]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[ 1.5 ]単位  
留学後の取得(予定)単位[ ]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[ 2012 ]年 [ 4 ]月入学 西暦[ 2016 ]年 [ 3 ]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [ 4 ]年[ ]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 就職活動をするのか院に行くのか、そういった将来のことを具体的に決める前に留学をして、自分がどのような道を進むべきかを見極めたかったからです。また、卒業時期を遅らせないためにはこの時期がベストだと考えました。

### 留学の準備

#### ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学前にオンライン上のシラバスを見ながらどの授業をとるのかを永遠と悩み続けましたが、実際に現地でアドバイザーの方に相談したり、授業を見てみないとわからないことが多いので、その時間は必要なかったと思います。私も現地に行った後に、取る授業をかなり変えました。

#### ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

健康診断に行かなくてはいけなかったり、色々とめんどくさいです。また直前になると、手続きが間に合うのかどうか悶々したり、かなりのストレスになるので早めに準備することをおすすめします。

#### ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

私の場合、健康に対してかなり気を使っていたので、健康面でのトラブルはありませんでした。留学先では病気になると面倒なので、普段から厚着をしたり、病気にならないような対策を心がけましょう。

#### ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

海外旅行の保険に入りました。幸いにも一切お世話になりませんでした。

#### ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

私の場合、学年を下りずに留学することにしたので、その前にたくさん単位をとりました。また、留学中に履修登録をし、教授にメールを送って留学期間中の出席点を他の形で認めて頂けるように交渉したりするのが大変でした。

#### ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

東大に出願する時点では語学要件に達していなかったので、その成績の塗り替えの勉強を必死にやりました。ス

ピーキング対策はなかなか難しく、スカイプでの会話の授業を毎日行うようにしていました。

### ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

壊れたりなくしたりしても簡単には買えないので、変換プラグはたくさん持っていった方がいいと思います。直前にバタバタしてしまいとても大変だったので準備は前倒しで行うことをおすすめします。

## 学習・研究について

### ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Asian pop culture, Social research and policy, introduction to the movement, mathematics1B

### ②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

日本の大学と違って予習をしていかないとディスカッションに参加できません。リーディングやレポート等の課題を必死にこなしていました。また、UNSW は留学生の数がとても多く、普通の授業で西洋人ばかりに囲まれることはほぼありません。しかし Introduction to the movement という dance major の授業では、私以外全員が白人の現地の学生でした。また1人でただ授業を受けていればいい座学の授業とは違い、パフォーマンスの授業だったので、ペアを作って実際に体を動かしたりしなければならず、マイノリティーだからという理由で自分の殻に引きこもっている訳にはいきません。彼女達とどうやってコミュニケーションをとるのか、どうすればなじんでいけるのかということをも毎回考えました。ダンスを専攻していない私にとって学問的な意味はなかったかもしれませんが、本当にいい経験だったと思います。

### ③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

Asian pop culture, Social research and policy, introduction to the movement, mathematics1B・12 単位

週当たりの授業時間 16.5 時間

授業以外の学習時間 14 時間

### ④学習・研究面でのアドバイス

だらだら勉強するのではなく、効率的に課題をこなし、現地の友達と遊んだり話したりする時間をきちんととるようにしていました。実際、勉強以外のそういった時間から学んだことはたくさんありました。

### ⑤語学面での苦勞・アドバイス等

語学面では本当に苦勞しましたが、分からない時や困ったことがあったときは素直に申し出る勇気が必要だと思います。私は初めそれができずに、適当にごまかしていました。先生や生徒もこっちが留学生であることを分かっているのだから冷たい対応をされることはありません。

## 生活について

### ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

インターナショナルハウスという寮に滞在していました。友達のほとんどはこの入居者です。住んでいる学生はほぼ留学生なので、様々な国の人と知り合うことができました。イベントがたくさんあったのでとても楽しく、また勉強する時はきちんと取り組むという、めりはりのある空気が好きでした。3 食ともついていて自炊する必要がなく、学校にもシティにも近くて便利、家賃も他の寮に比べると格段に安かったので、本当に最高の滞在先だったと思います。

### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

思ったより寒くて、毛布やコートなどの防寒着を現地で買い足しました。ただ、UNSW はシティに近くとても便利でした。

お金に関しては出国前に 10 万円分をドルに変え、それ以外はクレジットカードを使うようにしていました。だいたいの場所でクレジットカードが使えるのでお金を送金してもらう必要はありませんでした。

### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

シドニーはとても治安がよく、全くトラブルはありませんでした。  
健康管理に関しては、風邪を引かないようにきちんと防寒していました。オーストラリアは一日の気温差がとても大きいので、いつも上着を一枚多めに持ち歩いて、調整出来るようにしていました。そのお陰で体調が悪くなることも一切なかったです。

**④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)**

航空賃 14 万円 家賃+食費 6500ドル 教科書代 50ドル 娯楽費 2000ドル

**⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)**

成績があまり良くなかったので、受給できませんでした。

**⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)**

UNSW の日本語の授業のアシスタント(ボランティア)、language exchange program、カラーラン、ハーフマラソンへ参加

**派遣先大学の環境について**

**① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)**

大学の公式のサポート体制も少しは利用していましたが、それよりも寮で出来た友達に様々な面で支えてもらっていました。その代わりに、日本語を教えてあげるなど自分にできる形でお返しをしていました。

**②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)**

ジム、図書館、カフェ、寮のすぐ近くにこれらの施設があり、よく利用していました。本当に便利でした。

**留学と就職活動について**

**①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど**

**②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響**

留学前は自分の将来が漠然としていて何も見えていませんでしたが、留学中に一般企業に就職すること自体が自分には向いていないのではないかという考えに至り、またそれ以外の様々な要因により、今は昔からの夢だった外交官になりたいと考えています。

**③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)**

**④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください**

- 1.研究職
- 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: )
- 3.公的機関(機関名: )
- 4.非営利団体(団体名又は分野: )
- 5.民間企業(企業名又は業界: )
- 6.起業(分野: )
- 7.その他( )

**留学を振り返って**

**①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感**

留学にいくということ。それは全く知らない人達と、全く知らない場所で、全く知らないルールに従って、一から生活を始めるということです。今まで築いてきた自分を全て崩されてしまいます。

もともと英語を話すことが得意ではなかった私は最初、何もできませんでした。日本では日本語が完璧に理解出来るというだけで、だいたいのことはなんとなくできてしまいます。仲の良い友達がいるので困った時は助けてもらえます。しかし、こっちはそうはいきません。英語が通じない、分からない、知り合いはいない、だから何もできない。そんな中で私は自信を失い、自分の存在価値を否定し、周りに対して距離をおいてしまいました。

そんなとき、ある学生と出会いました。彼女は日本語の勉強をしていて私に日本語を教えてほしいというのです。「日本語なら私にもできる」そう思い私は彼女と交流を始めました。

彼女との交流を深めるうちに徐々に私も心を開いていきました。その縁から、現地の日本語の授業のアシスタントをさ

せてもらえることになり、彼女だけでなく、それ以外の日本語専攻の学生とも話をするようになりました。その内に、英語を話すことへの抵抗も徐々になくなり、生活がうまくまわるようになっていったのです。

日本に帰ってきて留学の半年間を振り返ると、本当に充実して楽しい生活を送ることができたといえます。しかし、結果的にそう思えるのは、あのときに思い切って日本語を使ったからです。

留学が始まった直後で、英語を話さなければいけないと思っていた私に日本語を使うことはとても抵抗がありましたが、自分がどうやったらこの環境で生きていけるのか、この場での自分の特技はなんなのか、それをどう使えばいいのか、そういったことを考えた上での結果でした。

日本語を使うことで、生活にとけ込めるようになってからも、アウェイの環境の中でどう身をこなしていくのか、4ヶ月間考え続けました。学業的な面での成長もちろんありましたが、こういったことは、留学をしないとなかなか分からないことだったに間違いありません。

これからどういった進路を自分がとるのか、完全に決まった訳ではありませんが、どこに身を置くことになっても、その場で自分をどう発揮すれば良いのかを考えて行動することは、これからの人生に本当に役に立つことだったと言い切ることができます。

## ② 留学後の予定

完全に決まった訳ではありませんが、外交官になりたいと考えています。工学部を卒業した後、公共政策大学院にいきながら、試験に備える予定です。

## ② 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

“行くこと”が大事だと強く思います。例え自分の中で「どうして留学したいか」などの理由が明確になっていなかったとしても、行くこと自体に十分価値のあることです。1年近くかかった準備期間、様々なハプニングに見舞われ、それでも諦めずに最後までやりきったことは、自分の中で大きな自信になります。

また今後の人生に関わる程のモチベーションを、必ず留学中に見つけることが出来ると思います。私は、オーストラリアでたくさんの人に優しくして頂き、異国の地ですら、自分を助けてくれる人がたくさんいるということに気がきました。日本に帰ってから周りの人に対して、もっと優しい人になろうと思いましたし、特に日本の留学生に対してその恩返しをしたいと思います。

日本文化が現地でも人気があることにも驚きました。お寺などの伝統的なものから、アニメや漫画などの現代的なものまで、自分の方が知らないのではないかと思うほど、たくさんの方が興味を持っていました。人生で初めて自分が日本人であることに誇りを持ちました。

そのようなことから、今は理系に進んでいたとしても、昔からの夢だった外交官になるという道をやはり目指したいと思うようになりました。

周りの話を聞いていると、留学に興味をもっていても、手続きやその後の進路をどうするかという障壁に阻まれ、実際に行く人は多くありません。

留学をすることで人間的に成長が出来るのは間違いないので是非、勇気を持って留学してほしいと思います。

## その他

### ① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

### ② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

メールに添付しておきます。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 経済学部、3 年

参加プログラム: 全学交換留学プログラム

派遣先大学: ニューサウスウェールズ大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業(業界:コンサルティング)

#### 派遣先大学の概要

大学名: ニューサウスウェールズ大学

所在地: シドニー

#### 留学した動機

英語能力の押上げ

#### 留学の時期など

- ① 留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部[3]年の[夏]学期まで履修
- ② 留学中の学籍: 留学
- ③ 留学期間: 2014 年 7 月 ~ 2015 年 6 月 学部[3]年時に出発
- ④ 留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部 [4]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤ 就職活動の時期: 西暦[2017]年 修士[1]年の[8]月頃に(行う予定)
- ⑥ 留学での単位数: 留学前の取得単位[12]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[36]単位  
留学後の取得(予定)単位[58]単位
- ⑦ 入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月卒業
- ⑧ 本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[0]ヶ月間
- ⑨ 留学時期を決めた理由:  
留学経験を自身の意思決定に反映させようと考えており、可能な限り早く留学経験を得心したため。

#### 留学の準備

##### ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特にはありません。

##### ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

一般的なアドバイスにとどまりますが、手続きにかかる時間が予測できない以上、渡航 2 か月前には動き始めたほうが良いです。

##### ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

オーストラリアでは特定の病院で健康診断を受けなくてはならず、7 月は予約でいっぱいになってしまうので、6 月中に検診を受けるもしくは 7 月分の予約をしておくことをお勧めします。

##### ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

当時最安だったため、朝日火災の保険に加入していました。

##### ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

・経済学部のゼミにおいて単位分割申請を提出しました。

これは出発前に行った一学期分のゼミ学習を単位に変更するための手続きで、教授のサインが必要となります。

・所属学部(経済学部)の授業はほとんど取ることができず、他学部のレポート授業を履修していました。これは経済学部ではほぼ全ての科目において 7 月末の試験を受けなければ単位を取得することができず、なおかつオーストラリア留学生は 7 月中旬に日本を発たなければならないためです。

##### ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

・毎日 20 分ほどオンライン英会話を受講していました(レアジョブを利用)。

・出発までに TOEFL100 点以上を取得することを目的とし、その取得までは毎日リスニング、ライティング、リーディングの訓練を行っていました。

##### ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

現地の学生との関係構築のきっかけとして以下 2 点はお勧めできます。

- ・音楽、スポーツ、サブカルチャー(アニメ、マンガなど)、料理に関連するものを持っていく
- ・有名な映画、TV show(GoT など)を視聴する(オーストラリアでの話題の 2 割ほどはこうした娯楽でした)

## 学習・研究について

### ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

#### ■1 学期

- ARTS3639 Japan in Popular Culture.
- COMP1917 Computing 1
- MGMT1101 Global Business Environment
- MGMT2105 East Asian Business Enterprise

#### ■2 学期

- COMP1927 Computing 2
- MGMT1001 Managing Organisations&People
- MGMT2101 Int Bus & Multinat Operations
- MGMT3001 Business & Corporate Strategy

### ②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

#### ■授業様式

こちらでの授業は 2 時間のレクチャー並びに 1 時間のチュートリアルから構成されます。

レクチャーは東京大学での講義と同様の形式で実施されますが、チュートリアルでは少人数に分けられ、学生によるプレゼンテーションとそれをもとにしたディスカッションが行われます。

評価においてはだまかにチュートリアルでのプレゼンテーションやレポートが 5 割、期末や中間試験での成績が 5 割ほどの重みを持っていました。

#### ■学習スタイル

予習に関しては、チュートリアルにてディスカッションのための事前学習が求められるので、そのためのリーディングを行っていました。

復習に関しては、試験期間には(当然ですが)すべての科目の復習を行いました。授業期間にはプログラミングの授業を除いて特には行っていませんでした。受講した授業の多くが 1, 2 年生対象の授業だったためそれほど学習内容が多くなかったこと、チュートリアルにおいて適宜グループワークが課されるため、そのグループワークがある程度復習の役割を担っていたことが影響していたと思います。

#### ■印象に残っている授業

3 年生の向けの経営の授業にて、実際に 6 人ほどのグループに分けられてシミュレーションプログラムの中で企業を運用し、そのパフォーマンスを競いました。学んだことを適用するだけでなく、競争に勝利するという明確な目的のもとに各国の学生とグループワークができたのは良い経験でした。

### ③1 学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

- ・履修科目及び単位数: 4 科目、24 単位
- ・学習時間: 授業が 12 時間ほど、授業以外では普段は一日 2 時間ほどの勉強に加えて、時折レポートやプレゼンテーションに取り組んでいました。

### ④学習・研究面でのアドバイス

基本的には東京大学で学ぶ際と同様に学習すれば問題ないかと思いますが、チュートリアルでは発言することが前提になるため、(当然ですが)予習を行い、事前に疑問点をまとめておくという勉強方法が必要になります。

### ⑤語学面での苦勞・アドバイス等

・聞くことに関しては日本での訓練で困難を回避できるので、事前学習をしておくといいのではないかと思いますが。レクチャーの速さであればニュースサイト、日常会話の速さであれば TV show を聞くことで慣れることができます。

・話すことに関しては、発音の補強を日本にいる間からしておくといいたいと思います。以下 3 点が理由となります。

- ① 発音が良いとストレスなく会話することができる(相手が聞き返さなくてよい、自分は聞き返されなくて済む)
- ② ネイティブと会話で同量の情報をやり取りする(=対等に会話する)ためには、良い発音が必要になる。良い発音というのは、「最も効率化されたしゃべり方」とも言い換えることができるため、発音を良くすることにより多くの情報を一呼吸でやり取りすることができる(ようやく同量の情報を交換できる)ようになります。
- ③ 文章構成と正しい発音習得を同時に練習することは難しい  
現地で会話をする際に、発音に気を付けつつ文章を素早く構築することはなかなか難しいです。文章構築の徹底した練習は留学先でしかできませんが、発音の練習は日本でも行うことができます。

## 生活について

**① 泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)**

International House と呼ばれる寮で暮らしていました。

家賃は食事込みで週に 280 豪ドル、部屋は個室で、大学からの案内にて発見しました。

勉強用の部屋だけでなく、映画を見るための部屋、ジムなども用意されており、毎週週末にはイベントがありました。ダイニングホールにて食事を一緒に取るため、自然と住人同士でコミュニケーションが図られ、様々な学生と知り合うことができました。

**②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)**

基本的にはキャンパス内に寮が位置しており、寮が食事を支給するため、交通機関や食事等の心配は必要ありませんでした。

お金に関しては、現地にて銀行口座を開設し、そこに日本からお金を移送して使用していました。

**③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)**

一般的に緊急時に行くべき最寄りの医療機関の場所並びに連絡先は把握しておいた方が良いと思います。

**④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)**

**・毎月の生活費とその内訳**

寮費が週 280 豪ドルかかる以外は特に大きな出費はありませんでした。

**・留学に要した費用総額とその内訳**

■総額:170 万ほど

■内訳

- ・寮費:110 万
- ・航空券:10 万円
- ・保険(民間):10 万円
- ・ビザ、指定保険など:8 万円
- ・旅行など:32 万円

**⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)**

東京大学の国際交流課から紹介していただいた期間にて奨学金を受給していました。

**⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)**

- ・ビジネスケースを解くサークル
- ・寮のボランティア団体
- ・日本語クラスのチューター

を行っていました。長期休暇にはオーストラリアの郊外に行き、ヨーロッパから来た旅行者たちと農場にて働いていました。

**派遣先大学の環境について**

**①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)**

留学生サポート専門の施設があります。利用したことがないので、どれほどきちんとしたサポートを受けられるかは申し訳ないのですがわかりません。

**②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)**

図書館:学期中図書館は 10 時に閉まりますが、試験前には 24 時間開放となります。UNSW の図書館は数が少なく、なおかつ非常に騒々しいです。Main Library の Level 5 以上には(数は限られていますが)静かに勉強できるブースがあるので、そこでの席確保と勉強をお勧めします。

スポーツ施設:ジムがあり年間使用量は 200 ドルほどです。

食堂:キャンパスにいくつかフードコートがあるので食事には困りません。大体 8~12AUD ほどかかります。

**留学と就職活動について**

**①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど**

まだ就職活動を行っていないためわかりません。

**②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響**

特にはありません。

**③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)**

特にはありません。

**④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください**

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: ) 3.公的機関(機関名: )  
4.非営利団体(団体名又は分野: ) 5.民間企業(企業名又は業界: )  
6.起業(分野: ) 7.その他( )

**留学を振り返って**

**①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感**

今回の留学は自己の思考様式に大きな変化を与えたと思います。年齢という枠組みの相対化、他社と異なることへの直感的な肯定意識の取得、国外で暮らすことへの抵抗の激減などを通じて、今後自身の人生を考える上で多様に選択肢が広がったと感じられます。

また、自己形成における学問の重要性を再度認識できたことも大きな収穫でした。これにより、今後より目的意識を持って学業に臨めるとともに、マスターにて学ぶことも選択肢として新たに視野に入ったと思います。

**②留学後の予定**

学業に集中したいと思います。

**③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス**

留学はどの国の学生にとっても普通のことです。

こうした他国の何百という留学生と過去の多くの日本人留学生が示しているように、留学は(金銭的な問題を除けば)語学力や過去の経験に関わらず誰でもできることですし、行くことで確実に自身の人生に変化を与えることができます。「留学しない理由が考えられない」というのはよく言われることではありますが、留学しないことで損をしているとさえ思えるので、是非とも挑戦してみてください。

**その他**

**①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物**

**②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。**

次ページに添付いたしました。

ニュージーランド旅行にて、オーストラリア、メキシコ、中国、マレーシアからの友人と撮った写真になります





東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):文学部行動文化学科4年

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: ニューサウスウェールズ大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤民間企業(業界:総合商社) 6.起業 7.その他( )

#### 派遣先大学の概要

ニューサウスウェールズ大学。所在はシドニー。Group of Eight (オーストラリアの主要8大学)のうちの1校。ビジネスや理系の分野に強い。

#### 留学した動機

1. 海外での生活、海外の学生との交流を学生のうちに経験したい。
2. 海外の大学教育を経験したい。
3. 英語力の向上。

#### 留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 (学部) / 修士 / 博士[4]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学 / (留学)
- ③留学期間: 2014年 7月 ~ 2015年 6月 (学部) / 修士 / 博士[4]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2014]年 (学部) / 修士 / 博士[4(5)]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 (学部) / 修士 / 博士[4(5)]年の[8]月頃に (行った) / 行う予定
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[84]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[未定]単位  
留学後の取得(予定)単位[未定]単位
- ⑦入学・卒業 / 修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業 / 修了
- ⑧本学入学から卒業 / 修了までの期間: [5]年[0]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 留学を考え始めたのが学部3年時の夏~秋だったので、必然的に留学の時期は4年の夏からになった。

#### 留学の準備

- ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
履修科目の希望を提出しますが、次年度の科目は変更になることも多いので注意。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
あまり時間はかかりませんでした。早めに手続きをするに越したことはないと思います。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)  
指定の病院で健康診断を受ける必要があります。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
強制加入の保険がありますが、別の保険にも加入しました。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
ゼミ等、通年の科目の単位分割認定を申請しました。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
IELTS7.5。スピーキング対策としてオンラインの英会話を活用しました。
- ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
できるならば携帯電話のSIMロックを解除しておく方が良いです。

#### 学習・研究について

- ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)  
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。  
◆2014 Semester2  
ARTS2872 Living and Dying  
ARTS3293 Migrants and Refugees in Australian History

GEOS3651 Migration, Multiculturalism and Society  
SRAP3002 Social Research and Policy Project

◆2015 Semester1

ARTS2211 East Asia

ARTS2212 South East Asia

ARTS2846 Multiculturalism in Political Theory

ARTS2870 Global Citizens, Justice and Civil Society

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

◆授業・予習・復習のスタイル

授業は、大教室でのレクチャー2時間(1時間)+少人数でのチュートリアル1時間(2時間)、という構成のものが多いです。チュートリアルはレクチャーの内容に沿って議論しますグループワーク・発表を一度は課せられる授業がほとんどです。予習は基本的に指定された文献を読むことが中心となります。復習はレポートを書く時や試験勉強の時にやればよいかと思います。

◆印象に残っている授業

SRAP3002 Social Research and Policy Project

6人程度の班を作り、アンケート調査・インタビューを実施して発表を行うという内容でした。授業の内容自体のレベルはそれほど高くありませんでしたが、最初から最後まで一貫してグループ活動がメインの授業なので、海外の学生と協力して作業をする経験ができました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

履修科目:4科目、単位数:24単位

1科目週3時間なので、1週あたりの授業時間は12時間とそれほど多くありません。

授業前の準備は指定された文献を読むことが中心ですが、これに要する時間はその文献の量次第です。それほど時間のかからないものもあれば、相当に時間のかかるものもあります。また、学期中盤以降は授業の準備をしながら複数の提出課題を提出しなければならず、要する時間が長くなります。

④学習・研究面でのアドバイス

日本の大学のように評価が最終試験の一発勝負ということではなく、学期中に課される複数の課題に基づいて評価が決まります。そのため、基本的には課される課題を着実にこなしていくことで学習のペースがつかめると思います。普段の学習では、チュートリアルで発言するために、事前に気になる部分、何か意見を言いたい部分を考えながら予習をすると良いかと思います。

また、勉強はもちろん大切ですが、せっかく海外の友人と交流できる機会に勉強だけに時間を使いすぎてしまってもはったいないのでバランスをとると良いです。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

普段の生活や授業から英語を学ぶだけでなく、大学にある様々な機会を使って英語を学ぶことができます。例えば、Language Exchange Program では日本語を教えながら英語や他の言語を教えてもらうことができます。このように、語学を鍛える機会は大学のなかにも様々なものがあるので積極的に活用すると良いです。英語圏に住んでいれば自然と英語力が向上するというわけではないので、積極的にこのような英語を練習する機会を見つけると良いと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

International House という大学内の寮に住んでいました。3食付きで部屋は個室、そのほかキッチン・ジムなど共有施設があります。家賃は週 280 豪ドル。申し込む先が大学の他の寮とは異なるので注意。また、夏季休暇中は食事がつかなくなり、一泊 25 豪ドル程度の家賃になります。あまり安くはありませんが、大学内の他の寮に比べれば安い方です。ローカルの学生もいますが、留学生が多くいます。食事の時にダイニングホールで顔を合わせるので、自然と多くの学生と交流することができます。また、週に 1 回程度各国の留学生が自国のことを紹介するプレゼンテーションをし、自国の料理をふるまう Study Break というイベントがあるので特徴的です。寮費も比較的安く、様々な国出身の学生と交流できるので、寮に住みたい人にはおすすめできる寮です。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

冬は寒くなりますが、日本で真冬に着るコートが必要なほどではありませんでした。大学周辺には、少し歩けばスーパーマーケットもあり、バスでシドニー中心部にも行けるので比較的便利な場所でした。食事は寮で3食出たので特に不便はありませんでした。お金は現地で口座を作り管理しました。クレジットカードは多くの場所で使えます。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良いので、その点の心配はいらないと思います。大学内に保健センターのようなものがあり、一度風邪をひいた時に利用しましたが、予約が必要です。

**④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)**

**・毎月の生活費とその内訳**

寮費が月に 1,120 豪ドル(3食含む)、あとは友達とどこかに出かける際の費用など。

**・留学に要した費用総額とその内訳**

**総額**

189 万円程度

**内訳**

航空券代:16 万円

寮費+食費:130 万円

保険:15 万円

ビザ等:8 万円

その他娯楽・旅行等:20 万円

**⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)**

大学で案内をいただいたもので毎月 7 万円支給。成績が一定基準を満たしていれば受給できます。

**⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)**

Language Exchange Program や日本語授業のアシスタント。また、休暇中は JNTO(日本政府観光局)シドニーオフィスで週 2 回程度のインターンをしていました。

**派遣先大学の環境について**

**①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)**

大学内に課題を添削するなどのサポートをしてくれる施設があります。また、Hub Discussion Group という団体は、ローカルの学生が留学生の英語力向上をサポートしてくれます。

**②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)**

図書館は、席が少なくいつも混雑しており、騒がしいことが多いです。また、本の種類も少ないと感じました。大学の中にはジムがあり、利用している人も多かったです。

**留学と就職活動について**

**①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど**

メリット:自分の就職先を考える時間ができました。また、留学中のエピソードは面接でも活かしました。

デメリット:会社説明会・インターン等に参加できず、得られる情報が限られてしまいました。また、外資系企業等の選考は自分が帰国する時点では終わっており、参加できませんでした。また、名目上は 8 月以降に選考開始としながら 8 月以前に実質的な選考を行っている企業も多く、このような企業の選考は不利になりました。

私の場合は留学の時期が遅かったため、上記のように物理的に日本での就職活動に参加しづらく、デメリットは多くなってしまいました。しかし、自分の進路について考える時間ができ、無事に就職活動を終えることができたので結果的には良かったと思います。

日本にいないためにセミナーやインターンに参加できないことがどの程度ディスアドバンテージになるのかは、志望する業界や企業によって変わってくるのではないかと思います。そのため、就職活動と留学の兼ね合いで悩んでいる場合は、志望する企業で働く先輩等に話を聞いてみるのが良いと思います。

**②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響**

**③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)**

エントリーシートの提出などは海外にいても可能なので、できる範囲のことを行った。

**④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください**

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名: ) 3.公的機関(機関名: )

4.非営利団体(団体名又は分野: ) ⑤民間企業(企業名又は業界:総合商社 )

6.起業(分野: ) 7.その他( )

**留学を振り返って**

**①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感**

やはり現地に行って実感しなければわからないことは多いと感じる場面は多くありました。また、様々な国からの留学生と交流する機会もあったので、彼らの出身国のことについても想像力が少し働くようになったと感じます。英語力はもちろん向上しましたが、言語は使わなければ衰えてしまうので、留学後に使い続ける必要性を強く感じました。

**②留学後の予定**

今後は卒論を書きつつ旅行など卒業前にしかできないことをする予定です。

**③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス**

半年～1年間海外に身を置いて自分の好きなことを学べる機会はなかなかありません。留学して何を学ぶのかは人それぞれだと思いますが、必ず何か学ぶことがあります。就職活動との兼ね合い、金銭的な問題等の様々な事情で留学に行くかどうか迷っている人も多いと思いますが、もし行けるなら是非行ってほしいと思います。

**その他**

**①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物**

Go global(東大の留学情報サイト)

**②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。**